

## シラバス

科目名	基礎ゼミ		担当者名	池田 真太郎	
学 科	情報システム科		授業方法	ゼミ	
認定単位	2単位	開 講 期	必 選	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	現代のIT事情と社会に潜在する課題を再考し、IT技術を駆使した課題解決方法を見出すとともに、他者との協力方法やコミュニケーション能力を養う事を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	グループ演習を通し、実社会に潜在する課題を改めて認識するとともに他者との共同開発や演習を成功させ、IT技術を駆使した具体的な課題解決方法を見出せるようになることを目標とする。				
授業概要	ITと社会の関りをテーマにグループディスカッションを行うとともに、社会に潜在する課題解決を目的としたシステム開発とその成果物の発表を行う。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	社会人に必要な生活費	19	技術がない場合の開発	
	2	IT技術の需要とそれによって助けられている人	20	人材のマネジメント	
	3	IT技術を用いた費用削減	21	部下と上司	
	4	IT企業の利益の増やし方	22	人員補充	
	5	プロジェクト完遂までの費用	23	100万円の予算を使ってどうプロジェクトを遂行するか	
	6	システムに必要な機能数と時間の関係	24	あなたは職場に何を求めるか	
	7	システム開発計画(1/2)	25	システム開発計画(1/2)	
	8	システム開発計画(2/2)	26	システム開発計画(2/2)	
	9	チーム開発(1/7)	27	チーム開発(1/7)	
	10	チーム開発(2/7)	28	チーム開発(2/7)	
	11	チーム開発(3/7)	29	チーム開発(3/7)	
	12	チーム開発(4/7)	30	チーム開発(4/7)	
	13	チーム開発(5/7)	31	チーム開発(5/7)	
	14	チーム開発(6/7)	32	チーム開発(6/7)	
	15	チーム開発(7/7)	33	チーム開発(7/7)	
	16	発表資料作成(1/2)	34	発表資料作成(1/2)	
	17	発表資料作成(2/2)	35	発表資料作成(2/2)	
	18	発表	36	発表	
成 績 割 合	テスト		%	学習FB方法	日報や進捗確認の結果から各々の取組み方に関するフィードバックをする。
	学習態度・出席率		30%		
	レポート		70%	成績評価	出席率10点 レポート20点 成果物50点 成果物評価20点 計100点
	合計		100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>10% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	官公庁系システム開発に携わったのち、小学生向けのプログラミングスクールにて講師を務めた。プログラミングスクールでは、教材作成から講師の研修まで携わり、幅広い年齢に対しプログラミングを教えてきた。				

## シラバス

科目名	ビジネスマナー		担当者名	堀切 昌美	
学科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	社会人として身につけるべきマナーを学び、就職活動に活かす。仕事の仕組み、組織人としての意識を高める。資格試験対策を実施し合格に繋げる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	専修学校教育振興会主催『ビジネス能力検定(ジョブパス)』3級・2級の合格を目指す。				
授業概要	テキスト『実教 要点と演習 ビジネス能力検定 3級2023年度』『実教 要点と演習 ビジネス能力検定2級 2023年度』を使用する。自分の知らないルールやマナーを学び、社会人と同じ立ち居振る舞いができるよう実践する。単に資格取得を目標とするだけでなく、本当のビジネスマナーを学ぶ意識を持つことが必要である。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	科目設定の目的・授業進行・資格試験内容説明	19	お客様第一主義	
	2	自身のキャリアデザインを考える。働き方の多様化と現状を知る	20	肯定表現・敬語・クレーム対応	
	3	組織人としての8つの意識	21	接客・営業の進め方 会議運営	
	4	報告・連絡・相談のポイントと注意	22	チームワーク 2級ケースの問題対応	
	5	議事録の意義、会議の進め方	23	2級対策時事用語・IT時代の仕事の進め方	
	6	来客対応・訪問マナー	24	ロジックツリー・マトリクス・MECE 論理的思考と分析について	
	7	過去問に沿って、ここまでの復習	25	データの読み方・まとめ方、企画書とその他の文書	
	8	資格試験直前対策 ビジネス用語確認	26	日本の経済変化、為替、時事用語	
	9	ビジョンとドメイン、コンプライアンス、CSRについて	27	契約、社則、労働基準法、労働者の権利	
	10	働き方の変化、DX	28	2級合格を踏まえての過去問抜粋	
	11	社内文書と社外文書の基本	29	会社数字の読み方	
	12	情報収集の方法と活かし方	30	自身の強みと活かし方、社会への貢献	
	13	3C分析とSWOT分析	31	履歴書の書き方・作成	
	14	株式会社について 売り上げ・粗利	32	エントリーシートの書き方、採用者の視点・作成	
	15	給料明細の見方・様々な社会保険	33	自己紹介のしかた(面接を踏まえて)、自己紹介文の作成	
	16	キャリアとは何か、自分なりに考える。キャリアアンカーの見極め	34	総まとめ	
	17	基礎・常識問題、新聞記事、ケースの問題、資料解釈	35	総評・働くということ	
	18	試験の総評と、3級合格を目指しての総まとめ、過去問対策	36	面接対策	
成績割合	テスト	70	学習FB方法	随時小テストを実施する。過去問の理解が十分でない場合、個別対応を行う。	
	学習態度・出席率	15			
	レポート	15	成績評価	100-90点がS、89-80点がA、79-70点がB、69-60点がC、59点以下は不合格とする。 受検した資格試験結果	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て、民間企業に転身。営業部配属中に月間一千万円を売り上げ、女性マネージャに昇格。フランス・ルーブル美術館で行われたキモノショーの裏方経験をする。その後、企画部人事部の仕事に携わるうち、自身の培った何らかを若い世代に伝え、貢献したいとの思いから教育界に復帰。現在は、大学・専門学校・通信制高校においても教鞭をとり、企業業務委託講師としても活躍中。当校では、15年以上指導に当たっている。				

## シラバス

科目名	英語1		担当者名	鈴木 眞二	
学科	情報システム科ITスペシャリスト・大学コース(産業能率大学)		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	この科目は社会人に必要な教養を身につける必要性を啓発するものである。今までの英語学習経験において苦手意識を持っている者も、改めて英語というコミュニケーションツールの学習に取り組み、英語が今後の人生を豊かに過ごす一つの手段と気づかせる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	プログラミング作成や、インターネットを使った情報検索など、この業界で仕事をするうえで避けては通れない「英語」に慣れ親しみ、苦手意識を克服し、社会人として恥ずかしくないレベルの英語を身につける。				
授業概要	テキスト「OXFORD Smart CHOICE 1」を使用。 読む、書く、聞く、話す、の4技能をバランスよく学びます。義務教育では重要視されなかった、聞く、話す、を繰り返し、積極的にコミュニケーションをとるための簡単な英会話を学び、英語に興味を持ち、自主的に英語を学ぶ気持ちを養います。英会話に必要な表現を、クイズ形式での聞き取りや、ペアワークでの発表など、生徒参加型の形式で習得する。楽しみながらコミュニケーション能力を高めることができるような授業を展開する。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	Nice to meet you	19	Is there a coffee shop?	
	2	Nice to meet you.	20	Is there a coffee shop?	
	3	What do you do?	21	I had a good time.	
	4	What do you do?	22	I had a good time.	
	5	Do you like noodles?	23	I'm going to go by car	
	6	Do you like noodles?	24	I'm going to go by car.	
	7	How often do you exercise?	25	テスト リスニング対策	
	8	How often do you exercise?	26	テスト リスニング対策	
	9	I'm listening music.	27	テスト リスニング対策	
	10	I'm listening music.	28	筆記テスト対策	
	11	Where were you yesterday?	29	筆記テスト対策	
	12	Where were you yesterday?	30	筆記テスト対策	
	13	Which one is cheaper?	31	英会話テスト	
	14	Which one is cheaper?	32	英会話テスト	
	15	They're very friendly.	33	英会話テスト	
	16	They're very friendly.	34	テスト解説	
	17	You can visit the zoo.	35	まとめ	
	18	You can visit the zoo.	36	総評	
成績割合	テスト	25%	学習FB方法	評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	25%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>25% A<<主体的参加型学習>>25% G<<海外体感型学習>>25%				
講師プロフィール	海外留学、通訳案内、国連での業務経験を持つ。				

シラバス

科目名	オフィスソフト実習		担当者名	水野 良太	
学 科	情報システム科		授業方法	演習	
認定単位	2単位	開 講 期	必 選	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	文書作成・表計算ソフトウェアの基本操作を学習。 学習結果の証明としてマイクロソフトオフィススペシャリスト(通称MOS)を目指す。1年次の目標資格の1つであり、技術の修得だけでなく、就職活動に向けた資格取得も目的となる。				
授業概要	FOM出版 MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版 MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集 を活用し、マイクロソフトオフィススペシャリストに合格する。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	科目ガイダンス	19	タイピング Wordの基本的な活用	
	2	タイピング Excelの基本的な活用	20	タイピング Wordの基本的な活用	
	3	タイピング Excelの基本的な活用	21	タイピング Wordの基本的な活用	
	4	タイピング Excelの基本的な活用	22	タイピング Wordの基本的な活用	
	5	タイピング Excelの基本的な活用	23	タイピング Wordの基本的な活用	
	6	タイピング Excelの基本的な活用	24	タイピング Wordの基本的な活用	
	7	タイピング Excelの基本的な活用	25	タイピング Wordの基本的な活用	
	8	タイピング Excelの基本的な活用	26	タイピング Wordの基本的な活用	
	9	タイピング Excelの基本的な活用	27	後期試験実施	
	10	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	28	後期試験解説 MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	11	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	29	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	12	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	30	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	13	前期試験実施	31	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	14	前期試験解説 MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	32	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	15	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	33	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	16	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	34	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	17	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	35	タイピング MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した試験対策	
	18	タイピング MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集を活用した 試験対策	36	1年間の振り返り 次年度への話	
成績割合	テスト		学習FB方法		
	学習態度・出席率				
	レポート		成績評価	試験・提出物・出欠席を考慮して総合的に評価。 出席率に関しては出席して当然なので成績への反映割合は低いです。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>100% 各自で過去問に取り組み、模定試験合格に向けて何が必要かを考える R<実働実践型学習>70%模定試験の学習を通して、Officeソフトを活用できるようにする。 A<主体的参加型学習>70% 各自で対策問題に取り組み、検定試験合格に向けて何が必要かを考える。 G<海外体感型学習>30% 時間が許せば、海外でのIT活用事例などの話をする。				
講師プロフィール	都内私立高等学校での生徒指導や社会人研修の経験があり、またVBAやPythonをはじめとする技術取り入れた業務改善ツールや業務改善コンサルティングなどを行っている。資格試験対策講座・AI関連・ネットワーク系の授業も担当している。				

シラバス

科目名	一般教養		担当者名	伊藤 健生	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	72時間
授業目的	就職活動の採用試験として実施されることが多いSPI試験の言語・非言語部分に関して学習する。コースによっては1年次の終わりからスタートする就職活動に向けての準備と就活への意識付けを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	就職活動の採用試験として実施されることが多いSPI試験の言語・非言語部分に関して学習する。コースによっては1年次の終わりからスタートする就職活動に向けての準備と就活への意識付けを目的とする。				
授業概要	テキストは「高橋書店 イッキに内定 SPI スピード解法 一問一答」を使用。 この科目は就職活動準備のための科目である。授業内で学ぶ解法のコツを踏まえて自主的な学習をしなければ、就職活動の準備になるとは言えない。よって、授業外での自主勉強が必要となることを理解し、1年間をかけて社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	科目ガイダンス(目的・授業内容)	19	二語の関係(復習)濃度	
	2	二語の関係 その1割合	20	熟語(復習)推論(論理)	
	3	二語の関係 その2損益算	21	語句の用法(復習)推論(人口密度)	
	4	二語の関係 その3料金の割引	22	長文解読(復習)推論(濃度)	
	5	熟語 その1代金の精算	23	長文解読(復習)推論(増加率)	
	6	熟語 その2割割り	24	業界研究 および プリント復習1推論(順序関係)	
	7	熟語 その3速さ	25	業界研究 および プリント復習2推論(位置関係)	
	8	語句の用法 その1田会い算	26	面接練習 および プリント復習1推論(数量)	
	9	語句の用法 その2通過算	27	面接練習 および プリント復習2資料の読み取り	
	10	語句の用法 その3流水算	28	面接練習 および プリント復習3推論	
	11	長文解読 設問を先に読む回算	29	面接練習 および プリント復習4物の流れと比率	
	12	長文解読 冒頭文をチェックする時刻表	30	面接練習 および プリント復習5図ラックボックス	
	13	長文解読 筆者の言いたいことを探す集合	31	まとめ(言語分野) その1図ラフの領域	
	14	長文解読 文章をシンプル化する場合の数	32	まとめ(言語分野) その2図件と領域	
	15	長文解読 解答練習1確率	33	まとめ(言語分野) その3料金表	
	16	長文解読 解答練習2仕事算	34	まとめ(言語分野) その4図文読み取り	
	17	前期期末試験前期期末試験	35	後期期末試験後期期末試験	
	18	前期期末試験の解答解説及び総評前期期末試験の解答解説及び総評	36	後期期末試験の解答解説及び総評後期期末試験の解答解説及び総評	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	20%	成績評価	成績は、授業参加、出席、定期試験から総合成績を決定する 評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40 R<<実働実践型学習>>10 A<<主体的参加型学習>>40 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	講義形式を主とし、問題演習も積極的に行なう。また、就職試験の情報についても提供する。 担当教員:学習塾において、主要5科目の講義を担当し、その後、資格スクールで公務員試験対策の数的処理や、就職試験SPIの講義を担当。また、SPI試験対策の参考書(8冊)や公務員試験の数的処理の参考書(1冊)を執筆しており、某企業の就職試験用に学科試験と性格適性テストを作成して提供している。				

## シラバス

科目名	HTML実習		担当者名	堀川 暁	
学 科	情報システム科		授業方法	演習	
認定単位	2単位	開 講 期		授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	セマンティックHTMLを理解しインタラクティブ部分をマークアップ、コーディングを取得する				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	HTML、CSS、属性設定、CGIについて理解する				
授業概要					
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	制作環境設定	19	データベース連携 1 SQL基本	
	2	Web概論 言語、プロトコルなど	20	データベース連携 2 POD、接続	
	3	セマンティックマークアップ概論	21	データベース連携 3 SQLクエリの発行、取得	
	4	インタラクティブコンテンツ1 フォームオブジェクトinput1	22	データベース連携 4 パラメータ値のバインド、トランザクション	
	5	インタラクティブコンテンツ1 フォームオブジェクトinput2	23	データベース連携 5 演習1(学習予備日)	
	6	インタラクティブコンテンツ1 フォームオブジェクトinput3	24	データベース連携 5 演習2	
	7	インタラクティブコンテンツ2 フォームオブジェクトselect	25	データベース連携 5 演習3	
	8	インタラクティブコンテンツ3 フォームオブジェクト JS連携など1	26	フォーム、メール、データベースを使った演習1	
	9	サーバー転送、メール受信 テスト環境	27	フォーム、メール、データベースを使った演習2	
	10	サーバー転送、メール受信 実サーバー環境	28	フォーム、メール、データベースを使った演習3	
	11	自由課題1 設計～制作	29	フォーム、メール、データベースを使った演習4	
	12	自由課題2 制作～完成	30	フォーム、メール、データベースを使った演習5	
	13	オブジェクト指向 1 クラス定義、カプセル化	31	テスト対策	
	14	オブジェクト指向 2 継承、ポリフォーミズム	32	テスト対策	
	15	オブジェクト指向 3 トレイト、オブジェクト操作	33	テスト対策	
	16	オブジェクト指向 4 例外処理	34	テスト解説	
	17	オブジェクト指向 5 マジックメソッド	35	まとめ	
18	オブジェクト指向 6 名前空間、ローディング	36	総評		
成績割合	テスト	20%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>50% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール					

## シラバス

科目名	SQL実習		担当者名	池田 真太郎	
学 科	情報システム科		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期	必選	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	SQLと呼ばれる言語を用いたDBの管理や操作方法について学び、基本的なデータの抽出やデータの追加更新削除などの管理方法について理解することを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	SQLにおける基本的な抽出命令 (SELECT文) やDB内のデータの管理方法を理解することを目標とする。				
授業概要	MySQLと呼ばれるDBMSとコマンドプロンプトを使い、SELECT文やINSERT文といった基本的なSQLの使い方を演習を通し学んでいく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	DBとはSQLとは解説	19	項目で使うサブクエリ	
	2	全件抽出 (SELECT)	20	条件で使うサブクエリ	
	3	射影とDISTINCT	21	集計の集計に使うサブクエリ	
	4	選択 (WHERE)	22	内部結合 (INNER JOIN)	
	5	複合条件 (ANDとOR)	23	外部結合 (OUTER JOIN)	
	6	条件指定 (IN、BETWEEN、NOT)	24	テーブル設計と正規化 (1/3)	
	7	曖昧検索 (LIKE)	25	テーブル設計と正規化 (2/3)	
	8	演算と別名 (AS)	26	テーブル設計と正規化 (3/3)	
	9	並び替え (ORDER BY)	27	テーブル設計演習 (1/3)	
	10	自然結合 (NATURAL JOIN)	28	テーブル設計演習 (2/3)	
	11	集合関数とグループ化 (GROUP BY)	29	テーブル設計演習 (3/3)	
	12	集計値の条件抽出 (HAVING)	30	確認問題 (1/6)	
	13	追加更新削除	31	確認問題 (2/6)	
	14	DBとテーブルの追加と削除	32	確認問題 (3/6)	
	15	確認問題 (1/4)	33	確認問題 (4/6)	
	16	確認問題 (2/4)	34	確認問題 (5/6)	
	17	確認問題 (3/4)	35	確認問題 (6/6)	
	18	確認問題 (4/4)	36	1年間の総まとめ	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	各自の演習状況やテストの結果から理解度をフィードバックする。	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	20%	成績評価	出席率10点 試験70点 成果物評価20点 計100点	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	官公庁系システム開発に携わったのち、小学生向けのプログラミングスクールにて講師を務めた。プログラミングスクールでは、教材作成から講師の研修まで携わり、幅広い年齢に対しプログラミングを教えてきた。				

## シラバス

科目名	ネットワーク概論		担当者名	片山 昌樹、吉田 柊羽		
学 科	情報システム科		授業方法	講義		
認定単位	2単位	開講期	必選	授業時間数	36時間	
開講学年	1学年	必・選				
授業目的	コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	インターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する					
授業概要	コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。特にインターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する					
授業 計画 表	授業内容			授業内容		
	1	ネットワークについて	19	速度の求め方	その6	
	2	ネットワークの概念	20	ドメインについて	その1	
	3	ネットワークで用いる単位について	21	ドメインについて	その2	
	4	基数変換について	22	ドメインについて	その3	
	5	IPアドレスについて	23	ドメインについて	その4	
	6	IPアドレスの計算方法 その1	24	ポートについて	その1	
	7	IPアドレスの計算方法 その2	25	ポートについて	その2	
	8	IPアドレスの計算方法 その3	26	ポートについて	その3	
	9	IPアドレスの計算方法 その4	27	ポートについて	その4	
	10	IPアドレスの計算方法 その5	28	Wireshark の使い方	その1	
	11	IPアドレスの計算方法 その6	29	Wireshark の使い方	その2	
	12	IPアドレスの計算方法 その7	30	3 Way Hand shake	その1	
	13	IPアドレスの計算方法 その8	31	3 Way Hand shake	その2	
	14	速度の求め方 その1	32	ルーティングの基礎		
	15	速度の求め方 その2	33	スタティックルーティング		
	16	速度の求め方 その3	34	ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎	その1	
	17	速度の求め方 その4	35	ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎	その2	
	18	速度の求め方 その5	36	後期期末試験の解答解説及び総評		
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	成績評価		
	学習態度・出席率	30%				
	レポート	20%				
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>					
講師プロフィール	授業は、最新の技術を取り入れ就職してもすぐに役立つ内容を基礎として教えています。 担当教員は、内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外の字セキュリティ情報を常に追いかけ、その情報を授業に反映します。					



## シラバス

科目名	アルゴリズム		担当者名	矢島 徳章	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	整列・検索など様々なアルゴリズム理解を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	プログラム作成における基本的な考え方であるアルゴリズムと、それを図式で表現するJISフローチャートの記述方法、国家試験で出題される疑似言語の記述方法の学習を目標とする。				
授業概要	コンピュータプログラムの設計・作成に欠かせない計算手順を習得する科目であり、アルゴリズムの基本である順次・選択・反復の理解から、探索処理、整列処理などおよび、データ構造とアルゴリズムの関係を学習する。基本情報処理試験で出題される疑似言語もこの科目で習得する。また、動作確認の上でJava言語を利用してアルゴリズムの検証もおこなう。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	流れ図の基本パターン	19	探索処理	線形探索
	2	繰り返し処理①	20	探索処理	ブロック探索
	3	繰り返し処理②	21	探索処理	二分探索
	4	繰り返し処理③	22	探索処理	ハッシュ探索
	5	繰り返し処理④	23	整列処理	基本選択法
	6	配列操作 一次元配列	24	整列処理	基本交換法
	7	配列操作 二次元配列	25	整列処理	基本挿入法
	8	疑似言語	26	整列処理	応用的な整列①
	9	疑似言語	27	整列処理	応用的な整列②
	10	疑似言語	28	整列処理	応用的な整列③
	11	疑似言語の基本パターン	29	文字列操作①	
	12	疑似言語の基本パターン	30	文字列操作②	
	13	疑似言語の基本パターン	31	文字列操作③	
	14	疑似言語の基本パターン	32	ビット操作①	
	15	前期講座の総復習	33	ビット操作②	
	16	データ構造①	34	ファイル処理①	
	17	データ構造②	35	ファイル処理②	
	18	データ構造③	36	後期講座の総復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート	20%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>0 A<<主体的参加型学習>>75 G<<海外体感型学習>>5				
講師プロフィール	高等教育機関で30年以上の経験及び、社旗人教育2年以上の経歴をもつ。また、学内業務システム作成の経歴を持つ。				

## シラバス

科目名	プログラミング1		担当者名	池田 真太郎	
学科	情報システム科		授業方法	演習	
認定単位	6単位	開講期		授業時間数	216時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	プログラミングの方法を理解し、基本的なプログラムの原理を理解することを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	Java言語を用い、プログラムの基本要素である順次選択繰り返しプログラムの構造を理解するとともに、Java Swingを使ったGUIアプリケーション開発が自力で作成出来るようになることを目標とする。				
授業概要	Java言語を用いプログラミングを学習する。 テキストエディタを使った初歩的なプログラミングから始め、Eclipseと呼ばれる開発ツールを使ったJavaプログラムの開発演習を通し、プログラミングの基礎について学ぶ。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	プログラミング開発環境の設定	19	開発演習 (2/2)	
	2	コンソール入力と出力	20	ダイアログの利用	
	3	if文による条件分岐と乱数	21	描画処理	
	4	while文による繰り返し	22	タイマーを利用したアニメーション処理	
	5	配列の利用	23	音の再生	
	6	多次元配列とfor文	24	文字列処理	
	7	論理演算	25	Mapの利用	
	8	メソッドの作成	26	ファイルフォルダ操作	
	9	GUIのフレーム作成	27	クリップボード処理	
	10	ボタンのクリック処理	28	バーコード読み込みと生成	
	11	画像の設定	29	マウスキーボードの自動操作	
	12	入力データの取得	30	マルチスレッド処理	
	13	チェックボックスとラジオボタンの利用	31	TCP通信	
	14	DB連携(抽出)	32	RESTful APIの呼び出し	
	15	DB連携(追加更新削除)	33	確認問題 (1/2)	
	16	確認問題 (1/2)	34	確認問題 (2/2)	
	17	確認問題 (2/2)	35	開発演習 (1/2)	
	18	開発演習 (1/2)	36	開発演習 (2/2)	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	各自の演習状況やテストの結果から理解度をフィードバックする。	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	20%	成績評価	出席率10点 試験70点 成果物評価20点 計100点	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	官公庁系システム開発に携わったのち、小学生向けのプログラミングスクールにて講師を務めた。 プログラミングスクールでは、教材作成から講師の研修まで携わり、幅広い年齢に対しプログラミングを教えてきた。				

## シラバス

科目名	ITリテラシー1		担当者名	青島 由美子	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	本科目は資格取得に重点を置いた科目である。コンピュータ関連の用語をはじめとする基礎知識と、情報処理技術者に必要な知識を得ながら、随時各試験への対策を実施。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	情報処理技術に関するハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの用語・技術を学び、専修学校教育振興会主催の情報検定(J検)情報活用3～1級の合格を目指す。また、国家試験であるITパスポートのテクノロジー部分の知識を習得し、1年次末までにITパスポート試験の全員合格を目指す。				
授業概要	テキスト「ITワールド」を使用。 講義内容の反復演習と、授業内で行う小テストで知識修得度を確認しながら、日々の努力を続けることだけが資格取得につながるという意識を持って授業に臨んでほしい。				
授 業 計 画 表	授 業 内 容			授 業 内 容	
	1	科目ガイダンス	19	ITパスポート範囲 マネジメント系 システム開発技術	
	2	情報検定(J検)3級範囲 パソコンの基礎	20	ITパスポート範囲 マネジメント系 ソフトウェア開発管理技術	
	3	情報検定(J検)3級範囲 インターネットの基礎	21	ITパスポート範囲 マネジメント系 プロジェクトマネジメント	
	4	情報検定(J検)3級範囲 情報モラル	22	ITパスポート範囲 マネジメント系 サービスマネジメント	
	5	情報検定(J検)2級範囲 経営戦略	23	ITパスポート範囲 マネジメント系 システム監査	
	6	情報検定(J検)2級範囲 マネージメント	24	ITパスポート範囲 テクノロジー系 基礎理論	
	7	情報検定(J検)2級範囲 データ構造	25	ITパスポート範囲 テクノロジー系 アルゴリズムとプログラミング	
	8	情報検定(J検)2級範囲 アプリケーションソフトの活用	26	ITパスポート範囲 テクノロジー系 コンピュータ構成要素	
	9	情報検定 過去問題解答 その1	27	ITパスポート範囲 テクノロジー系 システム構成要素	
	10	情報検定 過去問題解答 その2	28	ITパスポート範囲 テクノロジー系 ソフトウェア	
	11	ITパスポート範囲 ストラテジ系 企業活動	29	ITパスポート範囲 テクノロジー系 ハードウェア	
	12	ITパスポート範囲 ストラテジ系 法務	30	ITパスポート範囲 テクノロジー系 ヒューマンインタフェース	
	13	ITパスポート範囲 ストラテジ系 経営戦略マネジメント	31	ITパスポート範囲 テクノロジー系 マルチメディア	
	14	ITパスポート範囲 ストラテジ系 技術戦略マネジメント	32	ITパスポート範囲 テクノロジー系 データベース	
	15	ITパスポート範囲 ストラテジ系 ビジネスインダストリ	33	ITパスポート範囲 テクノロジー系 ネットワーク	
	16	ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム戦略	34	ITパスポート範囲 テクノロジー系 セキュリティ	
	17	ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム企画	35	後期期末試験	
	18	前期期末試験	36	後期期末試験の解答解説及び総評	
成 績 割 合	テスト	70%	学 習 F B 方 法	成績は、授業参加、出席、定期試験から総合成績を決定する また、受験した資格試験結果も成績に加味する	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	20%	成 績 評 価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。				

## シラバス

科目名	ICT実習Ⅱ		担当者名	
学 科	情報システム科		授業方法	実習
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数 72時間
授業目的	基本的なExcel VBAを身に付け、簡単な業務システムを作れるようになる			
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)				
授業概要	Microsoft社のExcelを用いてアプリケーションの操作の自動化を学び、業務の作業効率化が自分で出来るように知識をも身に付ける。			
授業 計 画 表		授 業 内 容		授 業 内 容
	1	オリエンテーション Excel マクロ	19	Excel VBA プログラミング
	2	Excel VBA プログラミング	20	Excel VBA プログラミング
	3	Excel VBA プログラミング	21	Excel VBA プログラミング
	4	Excel VBA プログラミング	22	Excel VBA プログラミング
	5	Excel VBA プログラミング	23	Excel VBA プログラミング
	6	Excel VBA プログラミング	24	Excel VBA プログラミング
	7	Excel VBA プログラミング	25	Excel VBA プログラミング
	8	Excel VBA プログラミング	26	Excel VBA プログラミング
	9	Excel VBA プログラミング	27	Excel VBA プログラミング
	10	Excel VBA プログラミング	28	Excel VBA プログラミング
	11	Excel VBA プログラミング	29	Excel VBA プログラミング
	12	Excel VBA プログラミング	30	Excel VBA プログラミング
	13	Excel VBA プログラミング	31	Excel VBA プログラミング
	14	Excel VBA プログラミング	32	Excel VBA プログラミング
	15	Excel VBA プログラミング	33	Excel VBA プログラミング
	16	前期試験	34	Excel VBA プログラミング
	17	前期まとめ	35	後期試験
18	Excel VBA プログラミング	36	1年間のまとめ	
成績割合	テスト		学習FB方法	
	学習態度・出席率			
	レポート		成績評価	試験・出席率・提出物の総合評価。 出席率に関しては出席して当然なので成績への反映割合は低いです。
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>100% R<<実働実践型学習>>70% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>30%			
講師プロフィール	都内私立高等学校での生徒指導や社会人研修の経験があり、またVBAやPythonをはじめとする技術取り入れた業務改善ツールや業務改善コンサルティングなどを行っている。資格試験対策講座・AI関連・ネットワーク系の授業も担当している。			

## シラバス

科目名	AI入門		担当者名	
学 科	情報システム科		授業方法	実習
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数 72時間
授業目的	AIの基礎知識・技術を習得する。			
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	LMSを利用したG検定受験レベルの学習およびAI関連のプログラミングの習得			
授業概要	AIの基礎知識・技術をPCを用いて実践し、1, 2年次に学んだプログラミング言語を駆使し実際にAIを操作できるようになるまでの知識の習得を目的とする。			
授業 計画 表		授業内容		授業内容
	1	オリエンテーションLMSの説明	19	Pytohn基礎
	2	人工知能概論講座1	20	ニューラルネットワーク講座
	3	ロジスティック回帰解説	21	ニューラルネットワーク講座
	4	人工知能概論講座2	22	畳み込みニューラルネットワーク講座
	5	人工知能概論講座	23	畳み込みニューラルネットワーク講座
	6	人工知能概論講座	24	Pytohn基礎
	7	サポートベクトルマシンの解説 ノードによるロジスティック回帰の実装体験	25	畳み込みニューラルネットワーク講座
	8	機械学習の具体的手法講座	26	畳み込みニューラルネットワーク講座
	9	機械学習の具体的手法講座	27	自然言語処理講座
	10	機械学習の具体的手法講座	28	Pytohn基礎2
	11	サポートベクトルマシンの解説 ノードによるNNの実装	29	自然言語処理講座
	12	機械学習の具体的手法講座	30	音声処理のAI講座
	13	機械学習の具体的手法講座	31	Pytohn基礎3
	14	機械学習復習	32	強化学習講座
	15	機械学習の具体的手法講座	33	教理・統計講座
	16	機械学習の具体的手法講座	34	AIと社会講座
	17	ニューラルネットワーク講座	35	AIと社会講座
18	前期まとめ	36	まとめ	
成績割合	テスト	80	学習FB方法	定期テスト
	学習態度・出席率	20		
	レポート		成績評価	成績は、授業参加、出席、定期試験から総合成績を決定する 評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10			
講師プロフィール	AI事業を行っている会社。授業は、最新の技術を取り入れ就職してもすぐに役立つ内容を基礎として教えています。			

## シラバス

科目名	ドローンプログラミングⅡ		担当者名	鎌倉 規匠	
学 科	情報システム科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	ブロックプログラミングを軸に実際のドローン操縦とプログラミングの双方の視点から今後に必要な物事を見出し対応する力を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ドローンの基本的な操縦スキル ブロックプログラミングで文章やプログラムのシンプルな組み方を学び scratch更にPythonでドローンのプログラミングを実行できる能力を身につける				
授業概要					
授業 計画 画 表		授業内容		授業内容	
	1	ドローンとは。操縦方法	19	認証プログラムとは	
	2	航空法とドローン操縦	20	顔認証の種類とプログラム	
	3	ドローン操縦②サークル	21	実際に取り入れてみよう	
	4	ドローン操縦③8の字	22	ドローンのプログラムをやってみよう顔認証を取り入れる①	
	5	SCRATCHをはじめよう	23	ドローンのプログラムをやってみよう顔認証を取り入れる②	
	6	SCRATCHでゲームを作る①	24	実際に動かしてみよう	
	7	SCRATCHでゲームを作る②	25	第三者の視点からプログラムを見直そう	
	8	SCRATCHでゲームを作る③	26	ドローン検定対策	
	9	SCRATCHでゲームを作る④	27	ドローン検定対策	
	10	SCRATCHで作った様々なゲームを深掘りする①	28	ドローン検定対策	
	11	SCRATCHで作った様々なゲームを深掘りする②	29	ドローン検定対策	
	12	SCRATCHでさいころ・くじ引き(ランダム関数)	30	ドローン検定対策	
	13	SCRATCHでドローンの操縦	31	ドローン検定対策	
	14	実際の操作とドローンプログラミング(経路と目的地への飛行)	32	ドローン応用ミッション	
	15	Pythonをはじめよう	33	ドローン応用ミッション	
	16	Pythonでプログラム①	34	ドローン応用ミッション	
	17	Pythonプログラム②	35	ドローン応用ミッション	
18	Pythonプログラム③	36	総評		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	20%	成績評価	*出席率80%以上 S:90~100点 A:80~99点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格*	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>30 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>30				
講師プロフィール	音楽、IT、制作業務など数々の分野で活躍。北九州親善大使を務める。海外の大学を卒業後、幅広く活動を続けている。				

## シラバス

科目名	ビジネススキルⅡ		担当者名	矢島 徳章	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	自分の卒業ビジョンを作成し、基本的なビジネススキル(働くうえで必要な能力のこと)を身につけ、進級・卒業・就職という大きな流れを意識しそれぞれの夢をかなえる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	2年次における、卒業ビジョンを作成し、それに必要な学びや社会人基礎力をテクノスや社会の中で見つけ、実践していく。				
授業概要					
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	後期の講義内容に関して&個人面談	
	2	内定後の過ごし方&個人面談①	20	挨拶・マナー①報連相・PDCAサイクル	
	3	一般常識ワーク&個人面談②	21	一般常識ワーク&個人面談①	
	4	ビジネス書読書&個人面談③	22	一般常識ワーク&個人面談②	
	5	目指す業界の未来を考える&個別面談	23	ビジネス書読書&個人面談③	
	6	企業研究(国内外)&個人面談	24	トークセッション(OBOGを招いて)	
	7	目指す業界の未来を発表する	25	前期で上がった課題に関するワーク	
	8	第二志望の業界を調べる&個人面談	26	就職後の目標設定①	
	9	夢の根っこの共通職種・業界を考える&個人面談	27	就職後の目標設定②	
	10	社会人基礎力①前に踏み出す力(グループワーク)&個人面談	28	コミュニケーションスキル①聴く力	
	11	社会人基礎力②考え抜く力(グループワーク)&個人面談	29	コミュニケーションスキル②理解する力	
	12	社会人基礎力③チームで働く力(グループワーク)&個人面談	30	コミュニケーションスキル③伝える力	
	13	海外で働くことをイメージ	31	個人面談④ 卒業ビジョンを基に	
	14	一般常識ワーク&個人面談④	32	個人面談⑤ 卒業ビジョンを基に	
	15	一般常識ワーク&個人面談⑤	33	個人面談⑥ 卒業ビジョンを基に	
	16	前期 振り返りと課題発見	34	まとめ1	
	17	後期の課題解決に向けたGD	35	まとめ2	
18	前期 振り返り	36	まとめ3		
成績割合	テスト		学習FB方法	ワークシートを基にした面談 前期・後期 成績表の送付	
	学習態度・出席率				
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	航空会社のグランドハンドリング部門、グランドスタッフ部門で勤務経験のある教員が担当。				

## シラバス

科目名	英語2		担当者名	鈴木 眞二	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	日大外国語科目、英語基礎の教科書 Welcome to College English を使用し、英語の文法やアメリカ文化などについて学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日大英語科目、英語基礎(2単位)のレポート・科目修得試験に合格する。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法練習問題</li> <li>・レポート作成</li> <li>・科目修得試験対策</li> </ul>				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	Welcome to College English Unit 1, Unit 7 Culture Note	19	WtCE Unit 16 Culture Note, Level 1	
	2	英語基礎レポート課題作成	20	WtCE Unit 17 Culture Note, Level 1	
	3	WtCE Unit 1 過去問題	21	WtCE Unit 18 Culture Note, Level 1	
	4	WtCE Unit 6 過去問題	22	WtCE Unit 19 Culture Note, Level 1	
	5	WtCE Unit 8 Culture Note, Level 1	23	WtCE Unit 20 Culture Note, Level 1	
	6	WtCE Unit 4 Culture Note, Level 1	24	WtCE Unit 2 Culture Note, Level 1	
	7	WtCE Unit 4 Culture Note, Level 1	25	科目修得試験対策	
	8	WtCE Unit 3 Culture Note, Level 1	26	科目修得試験対策	
	9	WtCE Unit 9 Culture Note, Level 1	27	Basic College English Seminar Unit 1 Verb 1	
	10	WtCE Unit 10 Culture Note, Level 1	28	BCES Unit 2 Verb 2	
	11	WtCE Unit 11 Culture Note, Level 1	29	BCES Unit 3 Verb 3	
	12	WtCE Unit 12 Culture Note, Level 1	30	BCES Unit 13 Conjunctions 1	
	13	WtCE Unit 13 Culture Note, Level 1	31	英語 I レポート課題作成	
	14	WtCE Unit 14 Culture Note, Level 1	32	英語 I レポート課題作成	
	15	WtCE Unit 15 Culture Note, Level 1	33	復習	
	16	復習	34	復習	
	17	前期期末試験	35	後期期末試験	
	18	試験返却	36	試験返却	
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	レポートの下書きについては添削をする。大学へ送ったレポートは返却され講評によりフィードバックされる。	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	20%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60% R<<実働実践型学習>>80% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>100%				
講師プロフィール	英文学、英語学を専門とし、日大通信教育部にて、中学校、高等学校教員免許(英語)を取得				



## シラバス

科目名	プレゼンテーション		担当者名	堀切 昌美	
学 科	情報システム科		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開 講 期	必 選	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	2学年	必・選			
授業目的	プレゼンテーションとは、基本的に人と人とのコミュニケーションである。この力をつけることは、仕事だけでなく広く人生を豊かにすることに繋がる。よって、プレゼンテーションの基本を身につけ、人前で話すことに自信を深めることができるよう、話し方や聴き方を学んだ後に、授業は発表技法を中心に展開していく。実際にプレゼンテーションを実施することで、工夫を凝らしながら意欲をもって挑戦していく態度を養いたい。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	プレゼンテーションとスピーチの違いを知る。 訴求ポイントの設定、時間と構成、話し順序を決めて発表することができる。 効果的なスライド作成が工夫できる。				
授業概要	テキスト『伝わるプレゼンの法則100』(大和書房)を使用する。就職活動をする上においても、プレゼンテーション能力は誰にとっても必要なものであるため、資料収集やシナリオ作成などの準備を授業外でも行うことを求めたい。 また、表現する楽しさを十分味わってほしい。娯楽プレゼンや説明プレゼンを取り上げ、関心のあるもの、身近な話題を自分の言葉で第三者にわかりやすく伝える力をつけていく。他のプレゼンを鑑賞することで、自分では気づかなかつた視点や意見の持ち方の広がりにつれ、スキルアップを図りたい。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	科目ガイダンス(目的・内容説明)	19	一年生プレゼン 準備③	
	2	プレゼンテーションの概要/形式/流れの確認	20	一年生プレゼン準備④ 発表技術を磨く・・・伝え方のテクニック	
	3	話し方を学ぶ・・・聞き手の分析	21	一年生プレゼン準備⑤ 発表技術/表現・視線/パーソナリティ	
	4	第一回プレゼン準備① テーマ決めと設計シート	22	一年生プレゼン準備⑥ ビジュアル化の方法と実践	
	5	第一回プレゼン準備② 情報収集・整理の必要性	23	一年生プレゼン準備⑦ リハーサルの仕方について	
	6	第一回プレゼン準備③ プレゼンテーションの組み立て	24	一年生プレゼン準備⑧ 読み上げ原稿の作成	
	7	第一回プレゼン準備④ スライド作成	25	一年生プレゼン準備⑨ 筋書き表の確認 リハーサル	
	8	第一回プレゼン発表と講評 意見・アイデアの出し方・訴求ポイント	26	7分プレゼンで気を付けること 本番	
	9	第二回プレゼン準備① プレゼンテーションの構成について	27	一年生プレゼン発表 本番	
	10	第二回プレゼン準備② プレゼン設計計画	28	プレゼンテーション技術を磨く 個人別課題と戦略	
	11	第二回プレゼン準備③ 資料作成、設計シートフレームワーク	29	プレゼン能力を高める ディスカッション	
	12	第二回プレゼン準備④ 資料作成、内容検討	30	最終プレゼン発表課題 内容決め	
	13	第二回プレゼン準備⑤ 資料作成、シナリオ作成	31	最終プレゼン発表課題 設計シート	
	14	第二回プレゼン準備⑥ 資料作成、スライド推敲	32	最終プレゼン発表課題 スライド作成	
	15	第二回 プレゼン発表 配布資料の準備、確認項目	33	最終プレゼン発表課題 スライド作成	
	16	第二回プレゼン発表 相互評価	34	最終プレゼン発表課題 スライド作成	
	17	一年生メッセージプレゼンプレゼン 課題と準備①	35	最終プレゼン発表 リハーサル	
18	一年生メッセージプレゼン 準備②	36	最終プレゼン発表 本番 総評		
成績割合	テスト	0%	学習FB方法	成績評価	評価基準は100-90点:S,89-80点:A,79-70点:B、69-60点:C59点以下は不合格とする。
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	50%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て、民間企業に転身。営業部配属中に月間一千万円を売り上げ、女性マネージャに昇格。フランス・ルーブル美術館で行われたキモノショーの裏方経験をする。その後、企画部人事部の仕事に携わるうち、自身の培った何らかを若い世代に伝え、貢献したいとの思いから教育界に復帰。現在は、大学・専門学校・通信制高校においても教鞭をとり、企業業務委託講師としても活躍中。当校では、10年以上指導に当たっている。				

## シラバス

科目名	応用ゼミ		担当者名	尾島 泰弘、吉田 柊羽、矢島 徳章	
学 科	情報システム科		授業方法	ゼミ	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	PBLによる学生の主体的なグループ学習				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	円滑なコミュニケーション能力の育成とグループマネジメント能力やグループ内での役割認知力を鍛える				
授業概要	テーマに沿ったWebシステムの企画・立案・スケジュール作成および管理から実際のシステム作成およびテストまで提示された期間に遂行し、その過程と成果物についてのプレゼンテーションを行う。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19	システム開発テーマ確認	
	2	開発プラットフォーム操作演習①	20	システム設計①	
	3	Mendix操作演習①	21	システム設計②	
	4	Mendix操作演習②	22	システム設計③	
	5	Mendix操作演習③	23	システム設計④	
	6	Mendix操作演習④	24	システム設計⑤	
	7	Mendix操作演習⑤	25	システム制作①	
	8	Mendix操作演習⑥	26	システム制作②	
	9	Mendix操作演習⑦	27	システム制作③	
	10	Mendix操作演習⑧	28	システム制作④	
	11	Mendix操作演習⑨	29	システム制作⑤	
	12	Mendix操作演習⑩	30	システム制作⑥	
	13	グループワーク①	31	発表準備①	
	14	グループワーク②	32	発表準備②	
	15	グループワーク③	33	リハーサル	
	16	グループワーク④	34	最終発表	
	17	ローコード開発中間発表	35	後期振り返り	
18	前期振り返り	36	総評		
成 績 割 合	テスト	40	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	20			
	レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>40 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>20				
講師プロフィール	高等教育機関で30年以上の経歴と、夜会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。				

## シラバス

科目名	セキュリティ概論		担当者名	片山 昌樹、吉田 柊羽	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	ネットワーク実習で構築したLinuxサーバを活用して、ネットワークで使用されるセキュリティ技術を実習を通して体験する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	テキスト「SBクリエイティブ 動かして学ぶセキュリティ入門講座」を使用。 テキストを使った様々な脆弱性や脅威の知識を学びながら、ネットワーク実習と連動して授業を進め、ネットワーク実習で構築したサーバのセキュア設定を組み込んでいく。				
授業概要	テキスト「SBクリエイティブ 動かして学ぶセキュリティ入門講座」を使用。 テキストを使った様々な脆弱性や脅威の知識を学びながら、ネットワーク実習と連動して授業を進め、ネットワーク実習で構築したサーバのセキュア設定を組み込んでいく。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	セキュリティの基礎	19	前期 総復習	
	2	GMITS を用いたセキュリティ概念 その1	20	プライバシーポリシー その1	
	3	GMITS を用いたセキュリティ概念 その2	21	プライバシーポリシー その2	
	4	GMITS を用いたセキュリティ概念 その3	22	プライバシーポリシー その3	
	5	PDCA サイクル その1	23	プライバシーポリシー その4	
	6	PDCA サイクル その2	24	プライバシーポリシー その5	
	7	PDCA サイクル その3	25	ISMS その1	
	8	PDCA サイクル その4	26	ISMS その2	
	9	CIA その1	27	PGP を用いた暗号化メール その1	
	10	CIA その2	28	PGP を用いた暗号化メール その2	
	11	CIA その3	29	PGP を用いた暗号化メール その3	
	12	CIA その4	30	iptables その1	
	13	個人情報保護法 その1	31	iptables その2	
	14	個人情報保護法 その2	32	iptables その3	
	15	個人情報保護法 その3	33	iptables その4	
	16	個人情報保護法 その4	34	iptables その5	
	17	前期期末試験対策	35	後期期末試験対策	
18	前期期末試験の解答解説及び総評	36	後期期末試験の解答解説及び総評		
成 績 割 合	テスト	70%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	20%			
	レポート	10%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>15 R<<実働実践型学習>>5 A<<主体的参加型学習>>70 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	授業は、最新の技術を取り入れ就職してもすぐに役立つ内容を基礎として教えています。 担当教員は、内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外の字セキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。				

## シラバス

科目名	Linux実習		担当者名	片山 昌樹、吉田 柊羽	
学 科	情報システム科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	1年次に学んだネットワークの知識を活かし、Linux環境でのネットワーク構築設定や、サーバ構築とサービス設定などを学習する。また、ネットワークに必要なUNIX環境の知識や操作も経験する				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	テキスト「技術評論社 ポートとソケットがわかればインターネットがわかる」を使用。 Linuxを使ったサーバ構築やサービス構築を実機を使いながら経験し、サーバ構築の方法を学習する				
授業概要	テキスト「技術評論社 ポートとソケットがわかればインターネットがわかる」を使用。 Linuxを使ったサーバ構築やサービス構築を実機を使いながら経験し、サーバ構築の方法を学習する				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	Linux インストール	19	前期 総復習	
	2	Linux の基礎 その1	20	Web Server の構築 その1	
	3	Linux の基礎 その2	21	Web Server の構築 その2	
	4	Linux の基礎 その3	22	Web Server の構築 その3	
	5	vi の使い方 その1	23	Web Server の構築 その4	
	6	vi の使い方 その2	24	Web Server の構築 その5	
	7	パーミッションの基礎 その1	25	Web Server の構築 その6	
	8	パーミッションの基礎 その2	26	Web Server マルチドメインの構築 その1	
	9	パーミッションの基礎 その3	27	Web Server マルチドメインの構築 その2	
	10	マルチユーザーの基礎 その1	28	Web Server マルチドメインの構築 その3	
	11	マルチユーザーの基礎 その2	29	Web Server マルチドメインの構築 その4	
	12	マルチユーザーの基礎 その3	30	Mail Server の基礎 その1	
	13	DNS の基礎	31	Mail Server の基礎 その2	
	14	DNS構築 その1	32	Mail Server の基礎 その3	
	15	DNS構築 その2	33	Mail Server の基礎 その4	
	16	DNS構築 その3	34	Mail Server の基礎 その5	
	17	前期期末試験対策	35	後期期末試験対策	
18	前期期末試験の解答解説及び総評	36	後期期末試験の解答解説及び総評		
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	試験の解答解説及び構築サーバーの確認	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	40%	成績評価	成績は、授業参加、出席、定期試験から総合成績を決定する 評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40 R<<実働実践型学習>>5 A<<主体的参加型学習>>50 G<<海外体感型学習>>5				
講師プロフィール	授業は、最新の技術を取り入れ就職してもすぐに役立つ内容を基礎として教えています。 担当教員は、内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外の字セキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。				

## シラバス

科目名	プログラミング2		担当者名	矢島 徳章、吉田 柊羽	
学 科	情報システム科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	6単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	216時間
授業目的	プログラミング言語JavaによるWebシステムの理解と開発を学習する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	Java技術であるJSP/Servletの技術を学習し、ショッピングサイトの仕組みを理解して、オリジナルのショッピングサイトを制作する技術修得を目標とする。				
授業概要	1年次履修しているHTMLおよびSQLを理解していること。およびプログラミングのにおいてJava言語を理解し、なおかつJava言語でデータベースの簡単な操作ができることを前提として授業が行われる。また、Webシステム(ショッピングサイト)作成において、システムのデザインに関する知識をシステム設計にて補間する。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	Java文法の復習	19	JSP パラメータによる出力変更、DBアクセス	
	2	クラス・インターフェース・スレッド	20	BeanとJSPのアクションタグ、Beanのスコープ	
	3	サーブレット レスポンス出力	21	MVCモデル データチェック・マスタ検索	
	4	サーブレット パラメータ受信	22	MVCモデル 接続プールによるDBアクセス	
	5	サーブレット DBアクセス	23	MVCモデルによるマスタメンテナンス	
	6	サーブレット DBマスター一覧	24	MVCモデルとスクリプトの利用	
	7	サーブレット DB条件検索1	25	MVCモデルのまとめ	
	8	サーブレット DB条件検索2	26	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	9	前期中間試験の解答解説及び総評	27	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	10	サーブレット セッション	28	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	11	サーブレット セッションを利用した一覧のページ分割	29	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	12	サーブレット マスタ追加	30	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	13	サーブレット マスタ変更	31	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	14	サーブレット トランザクション処理1	32	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	15	サーブレット トランザクション処理2	33	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	16	サーブレット トランザクション処理3	34	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	17	前期末試験の解答解説・総評及び復習	35	オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作)	
	18	JSP ディレクティブ、式、宣言、スクリプトレットタグ	36	作品発表及び振り返り	
成績割合	テスト	45%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	45%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>5%				
講師プロフィール	高等教育機関で30年以上の経歴と、社会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。				

## シラバス

科目名	ITリテラシー2		担当者名	青島 由美子	
学 科	情報システム科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	国家試験「基本情報技術者」の合格を目指す。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	国家試験「基本情報技術者」の合格を目指すため、基本情報の過去問を使用しながら理解度を深めるとともに、ネットラーニング社から提供されているe-Learning教材「基本情報対策」を受講し、基本情報技術者試験の合格を目標とする。				
授業概要	就活において大きな武器となる国家試験「基本情報技術者」合格のための知識を習得する。 授業内で行うもののほかに反復学習としてe-Learningを使った学習を行う。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	科目ガイダンス	19	基本情報技術者試験 科目B対策 情報セキュリティ	
	2	基本情報過去問重点学習(ハードウェア)	20	基本情報技術者試験対策 科目B対策 ハードウェア	
	3	基本情報過去問重点学習(情報処理システム)	21	基本情報技術者試験対策 科目B対策 ソフトウェア	
	4	基本情報過去問重点学習(ソフトウェア)	22	基本情報技術者試験対策 科目B対策 データベース	
	5	基本情報過去問重点学習(データベース)	23	基本情報技術者試験対策 科目B対策 ネットワーク	
	6	基本情報過去問重点学習(ネットワーク)	24	基本情報技術者試験対策 科目B対策 ソフトウェア設計	
	7	基本情報過去問重点学習(セキュリティ)	25	基本情報技術者試験対策 科目B対策 プロジェクトマネジメント	
	8	基本情報過去問重点学習(アルゴリズムとデータ構造)	26	基本情報技術者試験対策 科目B対策 サービスマネジメント	
	9	基本情報過去問重点学習(企業と法務)	27	基本情報技術者試験対策 科目B対策 システム戦略	
	10	基本情報過去問重点学習(経営戦略)	28	基本情報技術者試験対策 科目B対策 経営戦略・企業と法務/経営	
	11	基本情報過去問重点学習(情報システム戦略)	29	基本情報技術者試験対策 科目B対策 データ構造とアルゴリズム	
	12	基本情報過去問重点学習(開発技術)	30	基本情報技術者試験対策 科目B対策 データ構造とアルゴリズム(1)	
	13	基本情報過去問重点学習(プロジェクトマネジメント)	31	基本情報技術者試験対策 科目B対策 データ構造とアルゴリズム(2)	
	14	基本情報過去問重点学習(システム監査と内部統制)	32	総合学習(1)	
	15	基本情報技術者試験 科目A対策(1)	33	総合学習(2)	
	16	基本情報技術者試験 科目A対策(2)	34	総合学習(3)	
	17	前期期末試験	35	後期期末試験	
18	前期期末試験の解答解説及び総評	36	後期期末試験の解答解説及び総評		
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	成績は、授業参加、出席、定期試験から総合成績を決定する。また、受験した資格試験結果も成績に加味する	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	20%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。				

## シラバス

科目名	システム開発技術		担当者名	亀田 崇明	
学 科	情報システム		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	システム開発における工程と各工程の手法を学習する。また、国家試験である基本情報技術者のシステム開発部分の知識を網羅し、資格試験対策としての役割も持つ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)					
授業概要	テキスト「ゆたか創造舎 ソフトウェア開発の知識」を使用。 本科目は、国家試験「情報処理技術者」合格の為の知識を学習すると共に、エンジニアとして実作業を行う際に必要な知識を事例を交えて学習します。 卒業制作等で行う開発作業において、各工程で適切な手法を用いて円滑に高品質なプログラムが作成出来るよう、実作業で使える知識を習得すること。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	科目ガイダンス(目的・授業内容)	19	内部設計について1	
	2	システム開発の目的	20	内部設計について2	
	3	システム開発と職種	21	構造化設計技法1	
	4	開発工程とレビュー	22	構造化設計技法2	
	5	システム開発の要点	23	物理データ設計	
	6	ソフトウェアのライフサイクル	24	入出力詳細設計1	
	7	契約モデル・開発取引の共通フレーム	25	入出力詳細設計2	
	8	ソフトウェアパッケージについて	26	プログラム設計で行う事	
	9	プロジェクト計画	27	モジュール設計技法1	
	10	プロジェクト管理	28	モジュール設計技法2	
	11	見積り技法とプロジェクト組織の編制	29	オブジェクト指向について	
	12	品質管理と顧客満足度	30	プログラミングで行う事	
	13	外部設計について	31	プログラミング言語の概念	
	14	要求定義技法	32	テストで行う事	
	15	要件分析・設計技法	33	テストケース設計技法	
	16	コード設計	34	テストの進め方と結果の管理	
	17	前期期末試験	35	後期期末試験	
18	前期期末試験の解答解説 前期のまとめ	36	後期期末試験の解答解説 後期のまとめ		
成 績 割 合	テスト	70%	学習FB方法	前期・後期成績表にて送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>25 R<<実働実践型学習>>25 A<<主体的参加型学習>>25 G<<海外体感型学習>>25				
講師プロフィール	IT企業で長年エンジニアとして勤務した経験があり、開発に対する実務経験に基づいてエンジニア養成に向けた授業を展開する。				

シラバス

科目名	データベースソフト実習		担当者名	水野 良太	
学 科	情報システム科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	データベースソフトのひとつであるAccessを習得し、ビジネスシーンで簡易的に利用するデータベース構築技術を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ビジネスの現場で使われることので多いMicrosoft社製アプリケーションの1つAccess。その学習を通し最終的にはオリジナルのデータベースシステムの作成を目指す。 また、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(通称MOS)の取得を目指す。				
授業概要	「FOM出版 よくわかるMicrosoft Access 2019 基礎」 「FOM出版 よくわかるMicrosoft Access 2019 応用」 「FOM出版 MOS Access 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集」を使用。 IT業界だけではなく様々な業界で使われるデータベースソフトの操作について理解を深め、オリジナルデータベースシステムの作成を目指す。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	授業ガイダンス	19	Access 2019 応用	
	2	Access 2019 基礎	20	Access 2019 応用	
	3	Access 2019 基礎	21	Access 2019 練習問題	
	4	Access 2019 基礎	22	Access 2019 練習問題	
	5	Access 2019 基礎	23	Access 2019 練習問題	
	6	Access 2019 基礎	24	Access 2019 練習問題	
	7	Access 2019 応用	25	Access 2019 練習問題	
	8	Access 2019 応用	26	Access 2019 練習問題	
	9	Access 2019 応用	27	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	10	Access 2019 応用	28	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	11	Access 2019 応用	29	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	12	Access 2019 応用	30	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	13	Access 2019 応用	31	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	14	Access 2019 応用	32	MOS Access 365&2019 Expert対策	
	15	Access 2019 応用	33	後期試験前まとめ	
	16	前期試験前まとめ	34	後期試験実施	
	17	前期試験実施	35	後期試験解説	
	18	前期試験解説	36	総まとめ	
成 績 割 合	テスト		学習FB方法		
	学習態度・出席率				
	レポート		成績評価	試験・提出物・出欠席を考慮して総合的に評価。 S90点以上 A80~89点 B70~79点 C60~69点 それ未満は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>100%各自で対策問題に取り組み、検定試験合格に向けて何が必要かを考える。 R<実働実践型学習>70%検定試験の学習を通して、データベースの活用を学ぶ。 A<主体的参加型学習>100%各自で対策問題に取り組み、検定試験合格に向けて何が必要かを考える。 G<海外体験型学習>30%時間が許せば、海外でのIT活用事例などの話を学ぶ。				
講師プロフィール	都内私立高等学校での生徒指導や社会人研修の経験があり、またVBAやPythonを用いた業務改善ツールの作成をしている。当年では他にアプリケーションの講義・VBAの授業を担当している。				